

日高地区概況

令和4年9月1日現在

世帯数 9,403

人口 21,833

男 10,640

女 11,193

※この概要は日高支所管内の統計による

第208号

発行日 令和4年9月20日

発行 日高学区市民自治会

http://www.net1.jway.ne.jp/hitaka.com/

代表者 志賀 勝弘

編集責任者 木田 源一

印刷 おぎつ印刷



自然災害は必ず襲ってくる!!

日高学区の備えは・・・

東日本大震災から11年になりますがあの時の恐ろしさ、大変な思いは誰もが忘れることはないでしょう。その後も日本列島には頻りに地震や風水害など自然災害が起きています。国や県及び日立市では自然災害に備えそれれに対応した対策、防災減災についての防災情報や避難情報などを発信しています。

日高学区のみならず、自分の住んでいる環境に照らし合わせ日頃の心構えや備えの確認をしておきましょう。



11年前の東日本大震災時、行政とコミュニティが連携した給水活動

警戒レベルや避難指示を知ってますか

内閣府では大雨、洪水などの自然災害の発生状況により警戒レベルを5段階に分けています。気象庁から大雨、洪水高

第一に自分の安全を優先

地震などの災害が発生したらまず、自分の身の安全

を確保します。そのために日頃の備えと食料や飲料水の備蓄、家族での安否確認などが大切です。(自助)

次に近くに一人暮らしのお年寄りや身体の不自由な方はいないかなど、日頃の付き合いを大切にしておきましょう。(共助)

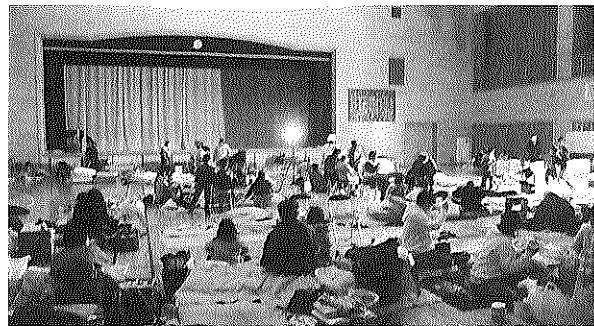
防災マップの活用を

日立では市内学区ごとに防災マップやハザードマップを発行しています。日高学区の防災マップ、津波ハザードマップは各世帯に配布されています。そのほか土砂、洪水のハザードマップは対象学区のみ配布になっています。一度確認してください。防災マップには避難所や一時避難場所など

日立市で避難時の要支援者名簿の見直し

備えあれば憂いなし

日高学区市民自治会では災害が発生したとき、警報や避難指示が出されたときは、日立市の災害対策本部と連携して市民自治会独自の対策本部を設置、本部役



同震災時の夜の避難所状況

日立市では現在、避難行動要支援者名簿の見直しを始めています。災害時に一人で避難することが困難な人、家族の助けだけでは無理な人などに限定し、本人の了解を得てコミュニティなどに、必要な情報の入った個票とともに、名簿を設置します。災害時に実際に支援を担当する人の名前も載ります。見直しは、現在ハザード内に住む人から行われていて、来年までには市内全域で調査が始まります。

員で組織されている自主防災会が防災減災の対応に当たれるよう防災訓練などを行っています。また、学区の災害時避難行動要支援者に対する見守りや声かけなど福祉ボランティアの協力による日頃の活動も行っています。

災害に強いまちづくりはみなさんの日頃の心構えと備え、正確な情報把握。何よりも人と人のつながりを大切にするところから作り出されます。

行事予定

9月21日～11月20日

日高学区市民自治会

○再生資源休日拠点回収

9月25日・10月23日(日)

日高交流センター

7月30日(土)

○ひよっこひたか

10月22日(土) 芋掘り

日高学区高齢者クラブ連合会

○グラウンドゴルフ大会

10月21日(金)

日高交流センター広場

日高文化協会

○3世代文化祭

11月4日(金)～6日(日)

日高交流センター

役員会報告

8月10日の役員会で次のことを協議しました。

*日高っ子体験村

*日高学区敬老会

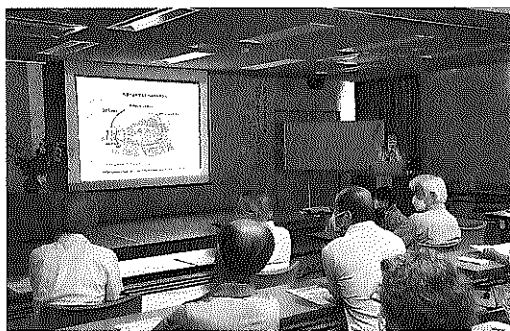
*日高クリーンアップデー

*日高文化祭

*魅力再発見事業の日高学区編

*台風シーズンを迎えて

生活を豊かにするSDGsを 考える ～Eco出前講座開催～



講師 吉田友紀子先生の講話

が輸送・焼却燃料の削減と温室効果ガスの削減も期待できることから生活様式の変化が求められました。これらは急速な経済発展に伴う生活の豊かさに対する意識が、モノから心の豊かさへの大きな変化の現れのとでした。

また産学協同で進められている水素の活用策として、カーボンニュートラルに対応した万博・街づくりなどの実証実験が紹介されました。

7月30日、日高学区市民自治会主催、地球温暖化防止の出前講座「生活を豊かにするSDGsを考える」講演会が日高交流センターで48名の参加者により開催されました。

講師は、昨年4月に茨城大学大学院に着任され、都市システム専攻の助教吉田友紀子先生と学生2名を迎えて行われました。

講演内容は2016年9月国連会議で決議された、地球上で一人残らず幸せに生活が継続的にできるようにと、SDGs「持続可能な開発目標」17分野の難しい課題でしたが、専門的な知識から優しく問題形式で解説され理解が深められました。

「分野2 飢餓をゼロに」では、ごみ・食品ロスの問題として、食べ残しの改善



ワークショップでの意見交換

日立市は「2015年ゼロカーボンシティひたち」を表明しています。課題分析から、CO2排出量削減（光熱費等電気の省エネ、フードロスの削減、及び、大量に消費される紙やプラスチックの削減）のため、償却処理ではなく節電、省エネやリサイクル（4R）の推進は私たちが身近

にできる温暖化防止活動となることを再確認しました。ワークショップでは、「これから豊かな生活を過ごすために！」「今日からできることはなに？」「私たちのいいところってなに？」などのテーマをグループ討議し意見発表を行いました。

発表の1例として、「日立市は美しい自然の海や山に囲まれた住みやすい街であるから観光、福祉、教育や生活の基盤となる職場を政策的に高めて市内外からの人的交流を促進した明るい街作りを目指す」などの意見が出されました。

猛暑の中 東連津川

清掃活動を実施

「東連津川をきれいにする会」では今年度第2回目の清掃活動を、7月23日に実施しました。

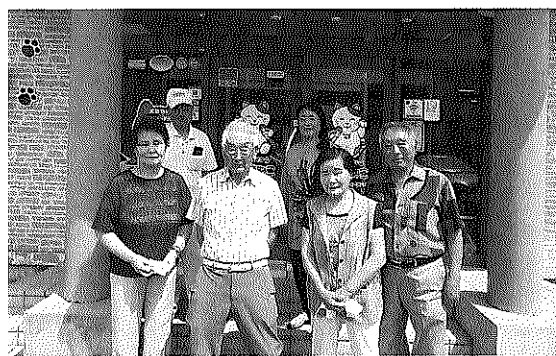
参加会員61名、刈払い機44台が出動し、流域4か所に分かれて草刈り、ゴミ拾い等を行い流域をきれいにしました。



猛暑の中アイスで休憩中の下流域の皆さん

小さな輪 大きな輪

カラオケ同好会



唄うことが元気の源

会の始まりは、カラオケ好きな人がなんとなく集まり平成29年12月に6名で発足し、3カ月に1回程度、12時から食事をしながら4時間カラオケを楽しんでいたとのこと。

令和3年2月から会長飯野隆弘、副会長根本とよさんを中心として月に1回田尻にあるカラオケハウスまねき猫で13時から4時間歌っているそうです。

皆さん喜々としてまねき猫に集合し各自菓子などを持ち寄りカラオケパーティーの雰囲気です。

会長、副会長の挨拶のあと、各自のレパートリー7曲、8曲くらいを新曲から昭和ナツメロまで70、80代とはとても思わない声量で歌っています。

声を出して楽しむことが皆さん生活の一部になっています。

(佐藤賢一)

コロナでも続く

ラジオ体操

8月の初め、涼しさを若干残す早朝、日高交流センター広場に三々五々、参加者が集まってきました。この時期は近所の小学生たちも混じり、いつもより活気に満ちているようです。

6時半になるとラジオから聞こえるリズムと指導者



皆そろって、いちにさん

の声に合わせて集まった約50人の参加者たちは一斉に体を動かして始めました。

一通り体操が終わると、大人たちはそれぞれ家路につき始め、子どもたちは持参したカードに本日分のスタンプをもらうため広場に置かれた机を取り囲むように集まって来ました。この経験は彼らが大人になっても夏休みの良き思い出となるでしょう。コロナ禍の前には、夏休みの終わりに皆でバーベキューを楽しんでいましたが、いつその日常が再開されるのでしょうか？



スタンプいくつ集まるかな

ずっと健康で長生きしてくださいね

日高学区の介護予防

日高学区市民自治会社会福祉委員会では、65歳以上の方を対象にした高齢者支援事業を開催しています。

コロナ禍で閉じこもりがちになると、筋力の低下を招き、日常生活に支障をきたしてしまうことがあるそうです。健康と介護状態の間といわれるフレイル予防のためにも、役立ててください。

にこにこクラブ

毎月第2・第4水曜日、午前10時～11時30分まで、日高交流センター2階1号室にて活動しています。

介護サービスを受けていない方を対象に介護予防を目的とした事業です。看護師による血圧測定などの健康チェックを受けた後、体操やゲーム、ミュージックケアなどを楽しみます。

シルバーハビリ体操

毎月第2・第4火曜日、午前10時～11時30分まで、日高交流センター2階1号室にて活動しています。

年齢を重ねても日常生活動作を円滑に行えるよう、筋力強化や柔軟性を高める体操を実施しています。シルバーハビリ体操指導士が丁寧に教えてくれるので安心です。

ふれあいサロン

近所の集会所に気軽に集い、通称おげんきクラブとして、毎月1回開催しています。宿東、西町、松ヶ丘、静原、小木津浜、小木津山、報徳の7地区で、健康体操や演芸鑑賞、介護・健康講話聴講など、様々な催しで楽しく活動しています。

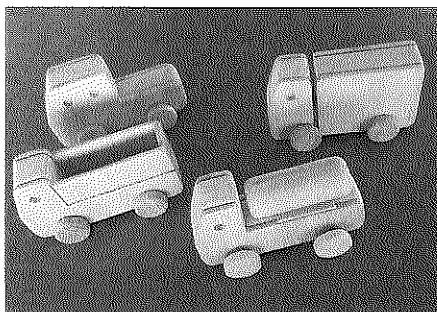


運動で、何かいいことありそうです

手作りのかわいいおもちゃが届いたよ

日高学区市民自治会社会福祉委員会では、日高交流センターで第1・第3水曜日の10時～、未就園児の親子を対象におもちゃライブラリーを開いています。子どもたちが、ブロック遊び、ままごと、お絵かきやトンネルくぐりなどで楽しく遊び、時には子育て相談なども気軽にできる、子育て支援の場です。

この度、小木津町の厚海佳二郎さんが作製された、木製の手作りおもちゃが届きました。万が一壊れてしまっても、子どもが誤って飲み込まないような大きさを遊ばせてあげてください。



新車4台入荷しました

の部品にしてある、角のない丸みを帯びた車のおもちゃです。

ふるさと郷土ひたか (20)

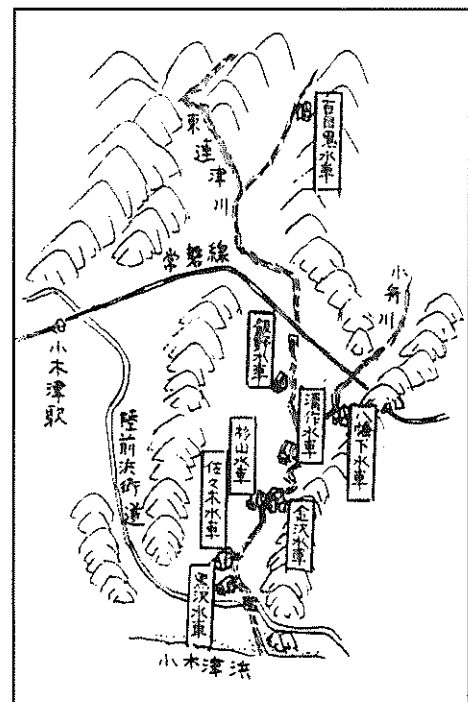
東連津川の水車小屋

かつては小学校の童謡でも歌われた水車、現在では実際に動いていたのを知っている方も少なくなりつつありますが、今から70年頃前までは旧小木津村にも十か所を超える水車がありました。水の流れを利用した究極の再生可能性エネルギー、昔の人々には我々が忘れかけた自然と調和する知恵があったのです。

かつて水車があった小木津浜周辺を歩くと、東連津川下流域の河川工事により、当時の面影はありませんでしたが、偶然、水車の存在を覚えているという豊田日出夫（80歳）さんにお会いすることができました。近くには何台かの水車があり、精米や製粉作業を請け負っていたそうで、その水車を作ったり修理するた



水車があった流れが、改修後の東連津川に交わる地点



東連津川の水車小屋地図

文芸ひたか

日高俳句会

夫と行く川床の席鰻料理
いとけなき稚のかたこと岩清水
新教師早速渾名もらひけり
マラソンにんて遊ぐ鯉職
薫風や古都鎌倉の女車夫
カナカナの輪唱途絶へ日暮かな
吾が想い信じて生きる去年今年
一山の巨樹を震わす姫春蟬
外出に着る物迷う初夏の朝

青木 照美
勝間田菊江
小島シン子
斉藤金四郎
鈴木 禮子
田山 陽一
藤田美津子
古館 英男
横倉 省三

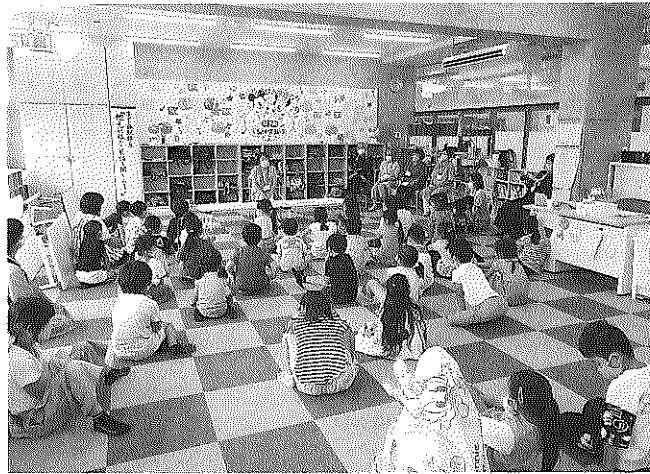
めの大工さんも数人住んでおり、豊田さん自身のお父さんもその一人であったとのことでした。

「東連津川の水車小屋」江戸時代末期から昭和の初め頃まで、米、麦、粟、稗等をついたり粉に加工したりして、賃取り営業を行っていた水車小屋があった。西町字岩本の百目鬼の滝水を利用した「百目鬼の水車」をはじめ、東連津川本流、

支流に、併せて十二軒の水車小屋があった。水車小屋は、六尺車、一の堰車、順七車、ドロブ車など水車の大きさや近くの堰名、営業者名等でそれぞれ呼ばれていた。大正七年には小木津村に電気が入り、石油ランプから電燈へと変わり、水車小屋も電力には太刀打ちできず逐次廃業、昭和二十年頃には、殆ど無くなった。東連津風土記より

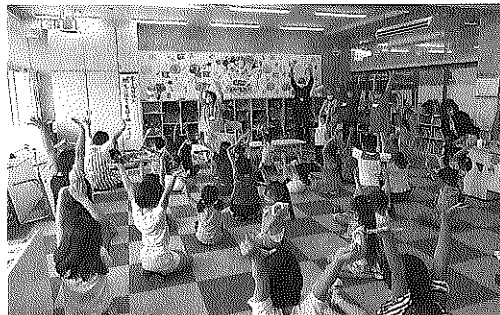
「ひたか民話の会」 児童クラブで昔話を披露

日高学区市民自治会では、「ひたか民話の会」の方々を語り部に迎え、「地元で伝わる民話を聞こう」と題して「民話教室」を計画し、毎回日高児童クラブの子どもたちが交流センターに出向くかたちで開催されていきましたが、今回(7月29日)は100人近い児童、そして、コロナ禍と猛暑を考慮して「出前民話教室」として民話の会が児童クラブを訪れ、密を避けるため、低学年と高学年の2部に分け行いました。



興味津々聞き入る子どもたち

今回の語り部は子ども達に大人気の松原洋一さんをはじめ、五月女五美枝さん、古村イサ子さん、岩間恵美子さん、豊田やよいさんの5人の方が務めました。民話の内容は、欲張りしたばかりに損をした話や、ごまかされたり、トンチ話など盛り沢山の話に、児童たちは真顔になったり面白くて隣同士顔を合わせ合っていました。



合間に体を動かして肩ほぐし

て大笑いしながら聞いていました。また民話終了後は低学年高学年それぞれの子どもが松原さんとじゃんけんやなぞかけなどをして賑やかに遊びました。児童クラブ支援員は子どもたちの様子を見ていて、いつもより集中して聞いているようで、終わった後、面白かった、楽しかったと言っていたと話してくれました。

安心安全サポーター

青パトで巡回

日高学区市民自治会の自警団「安心安全サポーター」では、日高交流センターの青色パトロールカーにより学区内の防犯巡回を実施しています。



小学生の下校時のパトロール

急パトロールや不審者情報が出されたときには臨時のパトロールも行っています。

東連津

日高小・中学校PTAのOB達を中心に「ひたか応援隊」というグループで活動を行っています。PTAが、子供たちの思い出作りとして、解体する日高小旧校舎に絵を描かせた「思い出プロジェクト」。

ひたか応援隊

まつり部 幹事
遠田 正樹さん

引越しのお手伝い。学校などで、人手が欲しいときに、応援する活動を行っています。『ひたか応援隊』の良いところは、やることや予算など、決めごとをつくらず、できる人が、できる時に集まり、ゆるく活動を行っているところです。もちろん、活動後の乾杯を楽しみにして。気軽に参加できる集まりですので、一緒に活動してみませんか。

広報紙を利用して!

地域、自主クラブ等の発展に

常日ごろ広報日高の発行にご協力頂き、広報部員一同感謝いたしています。コロナ禍の今日、日高学区、町内会、自主クラブ等の発展、活性化を図るための情報を寄せてください。例えば、是非知ってほしい微笑ましいこと、気付き難い危険個所の情報、近接する町内会を跨ぐ集まりなどです。自主クラブの宣伝や会員の募集記事依頼も受け付けます。

広報日高の発行は、奇数月の20日ですが、情報は随時受け付けます。掲載決定後、担当者から連絡し、詳細を打ち合わせます。連絡先 交流センター市民自治会事務局
☎42-4050

編集後記

7月に防災訓練が必要最低限の活動として開催された。行動制限が解除されているとは言えコロナ第7波の影響で市民の交流を目的とした活動は日高学区として開催出来ていない。感染防止の管理が困難なため仕方ないと思う。引き続き感染予防に努めると共に、以前と変わらない活動が出来ることを願っている。(黒澤)

◇ 会員募集 ◇

《ひたか民話の会》

声を出してひたかの昔ばなしを楽しみませんか?

- 定例会 毎月第3土曜日
- 時間 PM1:30~3:00
- 会費 年2,000円
- 場所 日高交流センター
- 申込先 岩間 42-9023



村上千代子さん
(72歳)
日高町



音楽が生きる軸

オカリナ演奏家の村上さんは、小津駅東口に食堂・居酒屋「キッチンハウスふうりん」を経営しています。お店は看板を目印に、色とりどりの草花に囲まれた通路を奥に進んだところにあります。

村上さんはいわき市で生まれ、平成元年に日立市社会福祉事業団に在籍、デイ

サービスセンターはまぎく荘などの施設で老人介護に14年間従事しました。老人介護施設ではレクリエーションを担当し、子供のころから音楽が好きだった村上さんはオカリナを独学で練習し、お年寄りの前で演奏をするようになりました。お年寄りの家族や、地域、学校などから依頼を受け、日立市内のほとんどの施設を訪ねたそうです。現在はギター、伊藤さんとデュオ「ふうりん」を組み、おげんきクラブ、日高学区文化祭、吉田記念館、キッチンハウスふうりんなどで演奏活動を続けています。村上さんは、マンツーマンで指導するオカリナ教室も開いています。

「年齢に関係なくやりたい時がやり時です。オカリナは、吹いてみると楽しいですよ。音楽を通して、皆から元気をもらっています。私には音楽が生きる軸」と、村上さんから聞きしました。(増子功)